

○(白石碑)二本榎保存之碑

公爵 徳川家達題

府下北豊島郡瀧野川町大字西ヶ原に幹太く枝茂りし  
緑蔭地を覆ひ行人皆仰ぎ見て尋常の古木に非ざるを  
知るものあり之を二本榎と云ふ是舊岩槻街道一里塚の遺存  
せるものにして日本橋元標を<sup>距</sup>る二と第二里の所なりとす  
往昔群雄割據の世道路久しく梗塞せしが徳川氏覇府を  
江戸に開くに當り先づ諸街道の修築を命じ道を夾み  
松を植ふ里毎に塚を置き塚には榎を植ふしむ之を一里塚  
と云ふ然るに年を経る塚多くは壞れ榎も亦斧斤の厄を  
免れず今存するもの甚だ少し二本榎は實に其存するもの  
一なり先年東京市は電車軌道を王子驛に延長せんとの

内務省東京土木出張所  
二  
企あり一里塚も道路の改修と共に撤廢せらるべんとせしが幸  
にして市の當事者學者故老の言を納れ塚を避けて道を  
造り以て之を保存せんとの議を決したり 法學博士男爵  
阪谷芳郎君東京市長となるに及び將來土地の繁榮と共に  
に車馬輻輳老樹の遂に枯損せん事を慮り瀧野川町長  
野木隆歡君及び有志者と謀る所あり男爵澁澤榮一君  
最も力を之に盡し篤志者の義損を得て周邊の地を購ひ  
人家を撤して風致を加へ以て飛鳥山公園の附屬地となせり 阪  
谷市長職を去るに及び現市長法學博士奥田義人君亦善  
く其事を繼承す今茲工成りて碑を建てんとし文を予に囑  
せらる予嘗て大日本史料を修め慶長九年の條に於て一里塚  
の由緒を記したる事あり又此樹の保存に就きて當路者に進

言せし縁故あり乃ち辭せずして顛末を叙すること此の如し惟ふに史蹟の存廢は以て風教の汚隆を見るべく以て國民の文野をトすべし幕府治平を講ずるに當り先づ施設せる所のもの今や總に廢頽を免れて帝都の郊外に永く記念を留めんとするは實に澁澤男爵兩市長町長及び諸有志者の力に頼れり老樹若し靈あらば必ず諸君の惠を感謝せん後の人々諸君の心を以て心となさば庶幾くは此の史蹟を悠久に保存することを得ん

大正五年六月

文學博士 三上參次

阪○大臣書

廣群鶴刻

(百石碑)

裏面

敷原

此石はもと江戸城の外郭帛の門の石垣に用おたるもの  
なり帛の門は慶長年間より始めて築造せられ其後數次  
の修覆を経たるが明治年間撤廢して石垣も亦毀た〇〇  
(三百年前)  
リ今之は充てたるは江戸の史蹟を顯彰するに於て適當の  
記念物なればなりとて之を保存すべしとて之を  
此の石はもと江戸城の外郭帛の門の石垣に用おたるもの  
なり帛の門は慶長年間より始めて築造せられ其後數次  
の修覆を経たるが明治年間撤廢して石垣も亦毀た〇〇  
(三百年前)  
リ今之は充てたるは江戸の史蹟を顯彰するに於て適當の  
記念物なればなりとて之を保存すべしとて之を